

「小杉まちづくり協議会」設立趣意書

小杉地区は昔から旧北陸道の宿場町として栄えてきた地区であり、過去には荒町、錦町等商盛会による納涼祭や青年団主体の藤井右門相撲大会や盆踊り等で大変にぎわったものである。また町・商工会主催のみこし祭り、下条川祭り等も盛大に行われていた。

しかしながら、前述の各事業は商工会や旧小杉町が中心となり、一部の沿線住民が関わった事業で事業間の連携や統一したコンセプトで運営されていたものでなかった。それに加えて、少子・高齢化による空き家・空き店舗等が増加し商店街の活力が大きく失われていることも影響し、事業を廃止や縮小して実施しているが、合併や財源不足等で今後はその継続が危ぶまれる状況となっている。また、最近では庁舎集約により今までのように自由に会場が利用できなくなり事業の先行きが不透明となっているものもある。

このような状況の中で平成14年、一部の有志により「旧北陸道アート in 小杉」が立ちあがり、竹内源造の鰻絵や旧北陸道の歴史遺産を活用したまちづくりをはじめ、年々地域の広がりや賑わいの創出が動き出した。

相まって、平成26年度から3年間の事業としてまちの歴史・文化資源を活用した「歴史と文化が薫るまちづくり事業」を実施しているところであり、まちのにぎわい取り戻しに大いに役立つことを期待したいところである。ただし、当事業は平成28年度で終了となっている。

このように、ようやく、かつての賑わいを取り戻そうという機運が大きく高まっていることから、住民に誇りと愛着を感じてもらえ末永く継続できるように、統一したコンセプトの下に、現事業の見直しを含め、新たなにぎわい事業も創出し、事業相互が連携したものにする必要があると考えます。

このため、真摯に現状把握し課題を抽出して、将来に向かってどのようなまちづくりをすべきかのビジョンを明確にしたうえで、実行可能な事業を創出する主体として、NPOなどへの移行を視野に入れて、この「小杉まちづくり協議会」を設立するにいたった次第である。

平成27年11月

設立発起人 永森直人県議会議員
同 上 宮城澄男三ヶ地域振興会会長
同 上 村井豊戸破地域振興会会長